

2014年2月

考古 No. 8

けんぱくものしりシート

くつ そう じん こつ 屈葬人骨



解説員

縄文時代の人は、人がなくなると手あつくほう

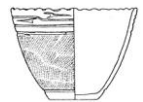
むりました。これは宮古市大付遺跡から発掘された今
から約2500年前（縄文時代晩期）の縄文人の骨です。



ぼくは 20代
前半の男性で
す。身長は約
160 cmです。

人びとは、土を掘った中
に、ぼくをあお向けに横たえ
て、両手と両足を関節で折
り曲げて、ほうむってくれま
した。当時よく行われてい
た「屈葬」という方法です。

胸のところに鹿の角を切っ
たものを、右肩のところに小
形の土器なども
いっしょに置いて
くれました。



ぼくの歯に注目してください。
上の歯が1本ありません。かがんで
見るともう一本ないことがわかりま
す。どちらも犬歯（糸切り歯）です。
そのころ、おとなになったあかし
に歯をぬく「抜歯」という風習があ
って、ぼくも経験しました。とても痛
かったけどがまんしました。

みなさんの歯は、上の前歯が下の前
歯にかぶさるかみ合わせをしているで
しょう。
ぼくたち縄文人は、みなさんとはち
がって、上の歯と下の歯がきれいに合
うかみ合わせをしています。
それにぼくは、上の歯の一番奥歯（親
しらず）が左右とも虫歯なんです。



○ : 屈葬 ○ : 伸展葬

いちのせきし はないずみちようかい とり かい づか くつそう じようもんじ だいちゆうき こうき やく しんてんそう ねんまえ
 一関市花泉町貝鳥貝塚 < 縄文時代中期～後期 (約5000～3000年前) >

■ 屈葬ってなあに? ☆☆

なくなった人の手足を折り曲げてほうむる屈葬は、縄文時代の早期(約9000※～6000年前)からみられ、縄文時代には広く行われていました。手足をのばしたままの形でほうむる伸展葬とくらべ、はるかに多くみられます。

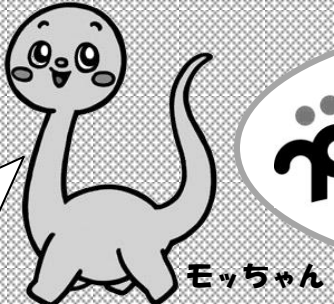
屈葬には、あお向けや横向き、うつぶせの姿勢のものなどがあります。また、手足の曲げ方や組み方も、「く」の字のようにゆるく曲げたものから、ひざやまた、ひじの関節で強く折り曲げたものまでさまざまです。

縄文時代の人びとは、自然のすべてに神(精霊)がやどっていると信じていました。なくなった人を屈葬にするのは、死者の霊がさまよい出てこないようにするためといわれていますが、ほかにも穴を掘るのが小さくてすむとか、おかあさんのおなかにいる時の赤ちゃんの姿勢をとらせた、休みの姿勢をとらせたなどの考え方もあります。

※ 早期の年代は、いろいろ説があります。

参考にした本 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』 宮古市教育委員会 1979年
 『図解 楽しく調べる日本の歴史 I 大むかしの日本』 日本標準 2010年 他

らいげつ がつ
 来月(3月)の
 けんぱくものしりシートは
 れきし
 歴史-8だよ!
 おたのしみに!



岩手県立博物館
 〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
 http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/